

# お盆と供養



## 直し方のわからないもの

「どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。」1992年リオデジャネイロで行われた環境サミットで当時12歳のセヴァン・スズキさんという女の子が訴えたことばです。オゾン層にあいた穴のふさぎ方、死んだ川にどうやってサケを呼び戻すか？絶滅した動物をどうやって生き返らせるか、そして今や砂漠となつた場所にどうやって森を甦らせるのか？何一つわからないのに今も変わらず私たちは壊し続けています。

日蓮大聖人は『立正安國論』に、

汝須く一身の安堵を思はば先ず四表の静謐（せいひつ）を祈るべきものか。

とお示しになられました。私たちの幸せは、常に周りの環境によつて影響されます。たと

え自分自身が一時的に幸福感を得たとしても、家族が不幸になつたり、周りで自然災害が起きたり、戦争によつて国家存亡の危機にさらされるようなことになれば、個人の一時的な幸福感などは一瞬で消えてしまします。個人の幸福は多くの人々の幸福があつてはじめて意味があるので。それは国や家族や身の回りのあらゆる命が安穏であることが大切なのです。しかしながら私たちはその一時的な幸福感のために周りの環境を破壊していくことをやめません。いざれそのつけは、我が身、そして我々の未来に必ず降りかかるてくるでしょう。いやもうすでに降りかかるてきているかもしません。

私たちの住むこのかけがえのない地球は、自己本位、自己の欲求によつて大きく破壊され尚も破壊し続けられています。今、日蓮大聖人がお示しになられたご信行こそ次の世代の安穏を保証するものです。私たちは今こそ、信仰の寸心を改め正しい信行を規範とした生き方を今も次の世代へも伝えていくことが大切な使命です。